

おおやまでらえんぎ

#33 大山寺縁起

作者：大山寺（おおやまでら）

刊行：昭和59年（1984）



📖 解題

■ 内容

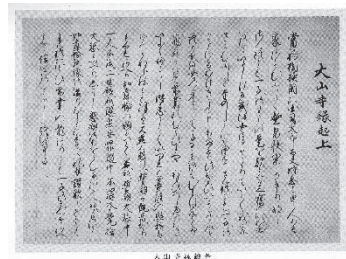
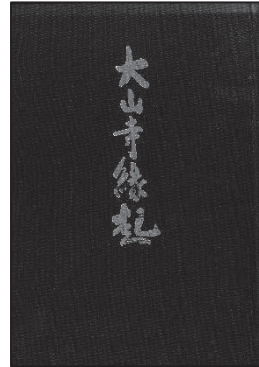
雨降山大山寺で昭和60年（1985）「宗祖弘法大師一一五〇年御遠忌」の際に発刊されたのが本書である。

本文は「大山寺縁起」、「大山史」、「山王縁起」、「明王太郎來由」から成る。また、図版として、「本尊不動明王座像（写真）」「寺号額（図）」「大山寺縁起繪卷（カラー）八図」、「大山關係古文書 二十図」等が掲載されている。

「大山寺縁起」は江戸時代に再調整されたとされる大山寺所蔵のもの（上下2巻（上巻12図、下巻14図））を底本としている。縁起の文章を翻刻しており、繪卷に描かれた図は、カラー口絵を含めるとすべての写真が掲載されている。

「大山史」は明治32、3年頃に22世住職十摩宥長等の寺僧によって書かれたものを底本としている。上中下巻の3巻の構成だが、下巻は現存しない（または未稿）とあり、上、中巻に書かれた第1～33章「地理総論」、「上古史」「中古史」「近古史」が掲載され、下巻第36～46章については「巻頭のことば」で目次のみが掲載されている。

「あとがき」として、本文とは別に目次があり、二十の項目について編者による論説がある。その中には、建築、修復について取り上げた項が複



[K18.64/23]

第3章 思想・宗教

数あり、「大山開山良弁堂」、「大山寺縁起繪巻について」「本尊昭和大修理について」「宝篋印塔のこと」「明治十七、八年上棟式、入佛式のこと」「大堂屋根替のこと」があげられる。概要だけでなく、関わった人々についても挙げられており、それぞれの経緯を知ることができる貴重な資料となっている。一部、実際にかかった費用や寄付金等の記載も見ることができる。その他、大山に存在する神社や仏像、墓地、奉納刀等について、図や写真を添え、その由来、寄進者などが述べられている。

当館以外に国立国会図書館、東京都立中央図書館、国際仏教大学大学院、種智院大学、東京国立博物館、東京大学、横浜市立大学学術情報センター、立正佼成会で所蔵が確認できる。

■ 作者

作者は、大山寺。大山寺の当時の住職は、千葉興全（ちば こうぜん）。権大僧正。大山寺第30世住職。生年不詳、没年1989年—1990年。

参考文献

『大山史年表』内海弁次著 大山寺 1986 [K18.64/26]

川島敏郎「古記録から見た大山信仰の諸相：『大山寺縁起繪巻』・『大山不動靈驗記』を中心として」（『神奈川県立公文書館紀要』第6号 神奈川県立公文書館 2008）[K01/71/6]

『定本大山寺縁起繪巻 上・下』川島敏郎編著 旅めぐり証明発行基金会 2012 [K18.64/40]

『相州大山信仰の底流：通史・縁起・靈驗譚・旅日記などを介して』川島敏郎著 山川出版社 2016 [K17.64/58]

『大山詣り』川島敏郎著 有隣堂 2017 [K17.64/61] [163.1/143]